

---

# スポーツ番組視聴における大学生の意識：

性差に着目して

富永徳幸

## University students' viewing consciousness on sports programs: Focusing on gender difference

Noriyuki TOMINAGA

### 1. 緒言

2018 年は平昌（韓国）冬季オリンピック・パラリンピックを皮切りに、サッカー・ワールドカップ（6 月）、世界水泳 2018（8 月）、アジア大会（8 月）などスポーツのビッグイベントが開催され、テレビなどのメディアはこれらの模様を放送するにあたって、メインキャスターに人気タレントを抜擢するなど、エンターテイメントとして盛り上げる工夫をしている。スポーツファンを中心に人々の関心は東京オリンピック・パラリンピック 2020 に向けられていると言えよう。

スポーツへの関わり方は、直接的な活動主体としての楽しみ方（するスポーツ）と、観戦・鑑賞するスポーツの楽しみ方（観るスポーツ）がある。この観るスポーツを対象としたイベントは 1970 年代以降巨大化や国際化が進んだ<sup>1)</sup>。人々はそのような魅力を感じて観戦するのだろうか。選手やチームの応援、競技への好み、期待感、スリル、ストレス解消、技術の高さや素晴らしさを満喫することなど様々に挙げられる。また、パフォーマンスに付加される会場の雰囲気や数々の演出を含めたエンターテイメントの要素も楽しみを助長すると思われる。スポーツ中継やスポーツ報道に対する観戦者の関心や好み、要求も多様である。人々は、

---

近畿大学工学部教育推進センター

Center for the Advancement of Higher Education,  
Faculty of Engineering, Kindai University

自宅やスポーツバー、またパブリックビューイング等を介して選手や観戦者との一体感を味わいながら競技者やチームのパフォーマンスに歓喜する。今やスポーツの映像はテレビ、DVD、を始めインターネット等により全世界に配信されていることを考慮すれば、メディアの取り上げ方も無関係とは言えない。

近年、女性のスポーツへの関心が高まっている。サッカー、野球をはじめ、フィギュアスケート、相撲などを観戦して楽しむ人々が年齢的な広がりを見せるばかりでなく、ラグビー、競馬など女性のファン層の増加傾向が見て取れる。例えば、広島東洋カープ（野球）の女性ファンの呼称である「カープ女子」は象徴的な存在である。その他にもセレッソ大阪（サッカー）の「セレ女」、ラグビーの「ラグ女子」、競馬の「UMAJO」大相撲の「スー女」などの女性の愛好者に対する表現がメディアにも頻繁に登場している。男子フィギュアスケートの特定の選手の応援に国内外を問わず駆けつける熱烈な女性ファンの存在がテレビなどで取り上げられることもある。こうした女性観戦者は友人などの誘いが契機として多く、選手のビジュアルやユニホームのデザイン、話題性から関心を持ち、SNSによる発信・交流を通して更に拡大しファンとして定着化している<sup>2)</sup>。女性の場合、特定の選手の存在はスポーツ観戦動機としては重要であろう。

以上のような関心から、本論ではスポーツ番組視聴に対する大学生の意識について性差に着目してアプローチすることを目的とした。

## 2. 方法

### 2.1 分析の視点

前述したように、女性スポーツファンの増加は年齢層も拡大しながら進行している。ファンの観戦動機としては特定の選手の応援、劇的なシーンやプレーへの願望、自分自身の競技経験など様々に考えられる。本論では、特定選手を応援している学生（ファン選手がいる学生）がスポーツ中継・報道をどのように捉えているか、またスポーツ番組を視聴する際に観るスポーツの魅力をどのように感じているかについて性差に着目して分析検討を試みた。

### 2.2 諸概念

#### 2.2.1 スポーツ中継・報道への意識

宮内<sup>3)</sup>はインターネット調査(2008)によってスポーツの観戦嗜好に関する報告の中でスポーツ中継に対する関心、好み、スポーツ報道への要望等について質問項目を提示している。本論ではそれらを援用してスポーツ中継・報道への意識と規定し、下記の3要因に設定した。

##### (1) スポーツ中継に対する関心

- ・見たいスポーツ中継は録画をしてでも見たい
- ・容姿のいい選手の中継は結果に関わらずに見たい

##### (2) スポーツ中継に関する好み

- ・スポーツ中継の実況は熱くなって一緒に応援するタイプが好きだ
- ・スポーツ中継のゲストには旬のタレントなども呼んでほしい

##### (3) スポーツ報道への要望

- ・スター選手だけでなく、脇役選手についても取り上げてほしい
- ・見たこともないスーパープレーについて特集してほしい

#### 2.2.2 観戦の魅力領域

佐野<sup>4)</sup>は、スポーツ観戦動機と心理的要因に関する先行研究の報告を整理した上で観戦動機を7因子<sup>注1)</sup>とした。また千駄ら<sup>5)</sup>は、観るスポーツの魅力をも7因子<sup>注2)</sup>に分類した。更に斉藤ら<sup>6)</sup>は、観客のスポーツ観戦における経験価値に言及し、経験価値尺度として4因子<sup>注3)</sup>を提示した。

本論では、テレビ・インターネットやDVD・CD等の媒体を通じた映像によるスポーツの観戦を対象としている。上述のスポーツ観戦動機(佐野)、観るスポーツ(千駄)、スポーツ観戦における経験価値尺度(斉藤)の内容を検討し、スポーツ観戦の魅力領域を「学習・獲得因子」、「鑑賞・審美因子」、「応援・期待因子」、「ドラマ・覚醒因子」、「ストレス解消因子」、「共感因子」、「楽しみ因子」の7因子に整理した。該当する設問項目は次の通りである。

- ① 学習・獲得因子
  - ・ 見ることによって自分の技能や知識を高めたい
  - ・ 高度な技を学ぶため
  - ・ 新しい技（またはプレー）を考えるための手段・資料を得るため
  - ・ そのスポーツの理解を深めたいため
- ② 鑑賞・審美因子
  - ・ 選手のスピードや、素晴らしい個人技が見たい
  - ・ 選手の素晴らしいパフォーマンスを見るのが好きだ
  - ・ スキルの高いフォーメーション・組織プレーを見るのが好きだ
  - ・ 名勝負を見るため
- ③ 応援・期待因子
  - ・ ある特定の選手を応援したい
  - ・ ある特定のチームを応援したい
- ④ ドラマ・覚醒因子
  - ・ スポーツが持つ意外性や筋書きのないドラマを楽しみたい
  - ・ ピンチになった時のスリルを味わいたい
  - ・ 予想が裏切られたり的中したりすることが面白いから
  - ・ 番狂わせや意外な展開などを見たい
- ⑤ ストレス解消因子
  - ・ 観戦することで、日常生活のストレスや疲れから解放されたい
  - ・ 大声を出すと気分がスッキリするから
  - ・ 日常から遠ざかって、非日常的な気分を味わうことができる
  - ・ いつも（試合に）没頭してしまい、他の一切のことを忘れることができる
- ⑥ 共感因子
  - ・ 選手が頑張っている気持ちがわかる瞬間、一体感を感じることができる
  - ・ 試合中の選手のミスが、自分のミスであるかのように感じられることがある
  - ・ 選手たちのプレーに強く心を動かされ、深く入り込んでしまうことがある
- ⑦ 楽しみ因子
  - ・ 試合を観戦するのは、純粋に楽しいからだ
  - ・ 純粋にスポーツを観戦するのが好きだ
  - ・ 一つ一つのプレーで作戦を想定して観ることができるから
  - ・ 監督になった気分になれるため

## 2.3 研究仮説

「ファン選手の有無による番組視聴の意識には性差がある」

## 2.4 分析の方法

### 2.4.1 調査

- (1) 調査方法 質問紙による配票調査法
- (2) 調査時期 平成 29 年 10 月中旬
- (3) 調査対象 広島県内の大学生 278 名
- (4) 調査内容 スポーツ中継・報道への意識，観戦の魅力領域，勝利志向，観戦競技のプレー意向の有無，ファン選手の有無

### 2.4.2 データの分析

本論では，ファン選手の有無を分類要因として，スポーツ中継・報道への意識，観戦するスポーツの魅力領域，観戦頻度，ファンチームの有無，観戦競技のプレー意向との関連性を性差に着目して以下のように分析検討した．

#### (1) スポーツ中継・報道への意識

スポーツ中継に対する関心（2 項目），スポーツ中継の好み（2 項目），スポーツ報道への要望（2 項目）の各質問項目への肯定度を 5 段階尺度で得点化した．更にファン選手の有無各群における性差を検討するために平均値を男女 2 群比較（t 検定）した．

#### (2) 観戦の魅力領域

学習・獲得（4 項目），鑑賞・審美（4 項目），応援・期待（2 項目），ドラマ・覚醒（4 項目），ストレス（4 項目），共感（3 項目），楽しみ（4 項目）の各質問項目への肯定度を 5 段階尺度で得点化し合計し因子得点とした．更にファン選手の有無各群における性差を検討するために平均値を男女 2 群比較（t 検定）した．

#### (3) 観戦頻度（3 群）

男女別に観戦頻度とファン選手の有無との関連性（ $\chi^2$  検定）を検討した．

#### (4) 勝利志向（2 群）

男女別に勝利志向の強弱とファン選手の有無との関連性（ $\chi^2$  検定）を検討した．

#### (5) 観戦競技のプレー意向（2 群）

男女別に観戦競技のプレー意向の有無とファン選手の有無との関連性（ $\chi^2$  検定）を検討した．

なお，分析には IBM SPSS Statistics Ver20.0 を使用した．

### 3. 結果

#### 3.1 スポーツ中継・報道への意識について

##### (1) スポーツ中継への関心

##### ① 見たいスポーツ中継は、録画をしてでも見たい

表 1-1 はファン選手のいる群（以下「有群」）およびファン選手のいない群（以下「無群」）において①に対する肯定度を男女比較（ $t$ 検定）した結果を示す。有群および無群とも差異は有意である。有群では女子学生の方が、無群では男子学生の方が有意に高い。なお、有群の女子学生の値がもっとも高く、見たいスポーツ中継は録画をしてでも見たいという思いが強い様子が見て取れる。以上のことから両群における意識には性差があることが示唆される。

表 1-1 見たいスポーツ中継は録画をしてでも見たい

		男	女	df	t	p	
有	N	85	65				
	M	2.91	3.92	148	-3.49	0.05	女>男
	SD	1.80	1.74				
無	N	88	40				
	M	2.48	1.40	126	3.65	0.05	女<男
	SD	1.73	1.03				

##### ② 容姿のいい選手の中継は、結果に関わらずに見たい

表 1-2 は②に対する結果を示す。有群のみ差異は有意である。有群では女子学生の方が有意に高い。なお、有群の女子学生の値がもっとも高く、容姿のいい選手の中継は結果にかかわらず見たいという思いが強い様子が見て取れる。以上のことから有群における意識には性差があることが示唆される。

表 1-2 容姿のいい選手の中継は結果に関わらずに見たい

		男	女	df	t	p	
有	N	85	65				
	M	2.72	3.31	148	-2.01	0.05	女>男
	SD	1.83	1.85				
無	N	88	40				
	M	2.20	2.60	126	-1.44	0.15	ns
	SD	1.50	1.30				

(2) スポーツ中継の好み

① スポーツ中継の実況は、熱くなって一緒に応援するタイプが好きだ

表 1-3 は①に対する結果を示す。有群および無群とも差異は有意である。有群では女子学生の方が、無群では男子学生の方が有意に高い。なお、有群の女子学生の値がもっとも高く、スポーツ中継では熱く応援するタイプの実況を好む様子が見て取れる。以上のことから両群における意識には性差があることが示唆される。

表 1-3 中継の実況は熱くなって一緒に応援するタイプが好きだ

		男	女	df	t	p	
有	N	85	65	148	-3.06	0.05	女>男
	M	3.41	3.98				
	SD	1.15	1.13				
無	N	88	40	126	3.15	0.05	女<男
	M	2.86	2.13				
	SD	1.34	0.94				

② スポーツ中継のゲストには旬のタレントなども呼んでほしい

表 1-4 は②に対する結果を示す。有群および無群とも差異は有意である。両群とも女子学生の方が有意に高い。ファン選手の有無に関わらず、女子は男子よりもスポーツ中継のゲストには旬のタレントを好む様子が見て取れる。以上のことから両群における意識には性差があることが示唆される。

表 1-4 中継のゲストには旬のタレントなども呼んでほしい

		男	女	df	t	p	
有	N	85	65	148	-2.81	0.05	女>男
	M	2.94	3.62				
	SD	1.43	1.49				
無	N	88	40	126	-2.10	0.05	女>男
	M	2.60	3.13				
	SD	1.36	1.18				

## (3) スポーツ報道への要望

## ① スター選手だけでなく、脇役選手についても取り上げてほしい

表 1-5 は①に対する結果を示す。有群のみ差異は有意である。有群では女子学生の方が有意に高い。なお、有群の女子学生の値がもっとも高く、スポーツ報道では脇役選手への注目も望む様子が見て取れる。以上のことから有群における意識には性差があることが示唆される。

表 1-5 スター選手だけでなく脇役選手についても取り上げてほしい

		男	女	df	t	p	
有	N	85	65				
	M	3.47	4.30	148	-3.47	0.05	女>男
	SD	1.62	1.15				
無	N	88	40				
	M	3.16	2.65	126	1.76	0.08	ns
	SD	1.67	1.10				

## ② 見たこともないスーパープレーについて、特集してほしい

表 1-6 は②に対する結果を示す。有群のみ差異は有意である。有群では女子学生の方が有意に高い。なお、有群の女子学生の値がもっとも高く、スポーツ報道ではスーパープレーの紹介も望む様子が見て取れる。以上のことから有群における意識には性差があることが示唆される。

表 1-6 見たこともないスーパープレーについて特集してほしい

		男	女	df	t	p	
有	N	85	65				
	M	3.61	4.45	148	-3.56	0.05	女>男
	SD	1.63	1.10				
無	N	88	40				
	M	3.16	2.75	126	1.43	0.16	ns
	SD	1.70	0.93				

### 3.2 観戦の魅力領域

#### (1) 学習・獲得因子

表 2-1 はファン選手がいる群（以下「有群」）およびファン選手のない群（以下「無群」）の学習・獲得因子得点を男女比較（t 検定）した結果を示す。両群とも男子の方が女子よりも有意に高い。なお、有群の男子学生の値が最も高い。ファン選手の有無に関わらず、男子の方がプレーからその技術を獲得したり、理解したりすることにより強く魅力を感じて観戦していることが示唆される。

表 2-1 学習・獲得因子得点

		男	女	df	t	p
有	N	85	65	148	3.94	0.05
	M	14.07	11.65			
	SD	3.58	3.92			
無	N	88	40	126	6.22	0.05
	M	10.89	5.47			
	SD	5.18	2.72			

#### (2) 鑑賞・審美因子

表 2-2 は鑑賞・審美因子得点の結果を示す。無群のみ差異は有意であり、男子の方が女子よりも有意に高い。なお、この得点は男女ともに有群の方が無群より高く、女子学生の値がもっとも高いが、有群において性差は見られない。ファン選手がいる学生は男女とも、そしてファン選手がいない男子学生は高水準のプレーを鑑賞することにより強く魅力を感じて観戦していることが示唆される。

表 2-2 鑑賞・審美因子得点

		男	女	df	t	p
有	N	85	65	148	-1.7	0.09
	M	17.03	17.69			
	SD	2.65	1.86			
無	N	88	40	126	5.6	0.05
	M	13.42	8.05			
	SD	5.29	4.38			

## (3) 応援・期待因子

表 2-3 は応援・期待因子得点の結果を示す。両群とも差異は有意である。有群では女子の方が、無群では男子の方が有意に高い。なお、有群の女子生の値が最も高い。ファン選手がいる群では女子の方が、ファン選手のいない群では男子の方が選手やチームを応援したり期待したりすることにより強く魅力を感じて観戦していることが示唆される。

表 2-3 応援・期待因子得点

		男	女	df	t	p
有	N	85	65	148	-2.01	0.05
	M	8.31	8.86			
	SD	1.55	1.83			
無	N	88	40	126	2.43	0.05
	M	3.39	2.6			
	SD	1.89	1.15			

## (4) ドラマ・覚醒因子

表 2-4 はドラマ・覚醒因子得点の結果を示す。両群とも差異は有意である。有群では女子の方が、無群では男子の方が有意に高い。なお、有群の女子生の値が最も高い。ファン選手がいる群では女子の方が、ファン選手のいない群では男子の方がドラマ性やスリル・意外性により強く魅力を感じて観戦していることが示唆される。

表 2-4 ドラマ・覚醒因子得点

		男	女	df	t	p
有	N	85	65	148	-2.00	0.05
	M	14.85	15.94			
	SD	3.82	2.68			
無	N	88	40	126	6.76	0.05
	M	12.01	5.97			
	SD	5.04	3.74			

## (5) ストレス解消因子

表 2-5 はストレス解消因子得点の結果を示す。両群とも差異は有意である。有群では女子の方が、無群では男子の方が有意に高い。なお、有群の女子生の値が最も高い。ファン選手がいる群では女子の方が、ファン選手のいない群では男子の方がストレス解消により強く魅力を感じて観戦していることが示唆される。

表 2-5 ストレス解消因子得点

		男	女	df	t	p
有	N	85	65	148	-3.1	0.05
	M	13.67	15.65			
	SD	4.13	3.5			
無	N	88	40	126	3.67	0.05
	M	10.85	7.75			
	SD	4.92	3.04			

## (6) 共感因子

表 2-6 はドラマ・覚醒因子得点の結果を示す。両群とも差異は有意である。有群では女子の方が、無群では男子の方が有意に高い。なお、有群の女子生の値が最も高い。ファン選手がいる群では女子の方が、ファン選手のいない群では男子の方がドラマ性やスリル・意外性により強く魅力を感じて観戦していることが示唆される。

表 2-6 共感因子得点

		男	女	df	t	p
有	N	85	65	148	-3.77	0.05
	M	10.06	12.26			
	SD	3.04	4.11			
無	N	88	40	126	4.68	0.05
	M	8.06	4.77			
	SD	4.05	2.65			

## (7) 楽しみ因子

表 2-7 は楽しみ因子得点の結果を示す。両群とも差異は有意である。有群では女子の方が、無群では男子の方が有意に高い。なお、有群の女子生の値が最も高い。ファン選手がいる群では女子の方が、ファン選手のいない群では男子の方が楽しみながら観戦することにより強く魅力を感じていることが示唆される。

表 2-7 楽しみ因子得点

		男	女	df	t	p
有	N	84	65			
	M	13.31	15.17	147	-3.14	0.05
	SD	3.97	2.99			
無	N	88	39			
	M	10.39	5.54	125	5.82	0.05
	SD	4.96	2.30			

以上 7 因子の得点における性差のみをファン選手の有無別に再度整理したものを表 2-8 に示す。ファン選手がいる群では 5 因子において女子の方が有意に高く、ファン選手のいない群では 7 因子において男子の方が有意に高い。

表 2-8 因子得点の性差 (ファン選手の有無別)

	学習 獲得	鑑賞 審美	応援 期待	ドラマ 覚醒	ストレス 解消	共感	楽しみ
有	○	ns	●	●	●	●	●
無	○	○	○	○	○	○	○

○ : 男子 > 女子    ● : 男子 < 女子

### 3.3 観戦頻度について

表 3-1 および表 3-2 はファン選手の有無による観戦頻度の比較 ( $\chi^2$  分析) の結果を示す。男女ともファン選手の有無と観戦頻度との関連性は有意である。女子では有群の観戦頻度は高く、無群の観戦頻度は低い。一方、男子では有群の観戦頻度に大きな偏りは見られず、無群の観戦頻度は低い。即ち、女子では有無が顕著に観戦頻度に反映されているのに対し、男子は無群のみにその傾向が認められる。以上のことからファン選手の有無と観戦頻度との関連性には性差があることが示唆される。

表 3-1 観戦頻度 - 男子 -

	低頻度	中間	高頻度	
有	31 (36.5)	21 (24.7)	33 (38.8)	85
無	55 (62.5)	9 (10.2)	24 (27.3)	88
$\chi^2(2,0.05) = 12.87$				

表 3-2 観戦頻度 - 女子 -

	低頻度	中間	高頻度	
有	10 (15.4)	8 (12.3)	47 (72.3)	65
無	35 (87.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	40
$\chi^2(2,0.05) = 54.63$				

### 3.4 勝利志向について

表 4-1 および表 4-2 はファン選手の有無による勝利志向の比較 ( $\chi^2$  分析) の結果を示す。男女ともファン選手の有無と勝利志向との関連性は有意である。男子では有群は勝利志向が強く、無群は勝利志向が弱い。女子はファン選手の有無にかかわらず勝利志向は弱い。即ち、男子ではファン選手の有無が勝利志向と明確に連動しているのに対し、女子はその傾向が認められない。以上のことからファン選手の有無と勝利志向との関連性には性差があることが示唆される。

表 4-1 勝利志向 - 男子 -

	弱	強	
有	17 (26.2)	48 (73.8)	65
無	41 (63.1)	24 (36.9)	65
$\chi^2(1,0.05) = 17.93$			

表 4-2 勝利志向 - 女子 -

	弱	強	
有	40 (62.5)	24 (37.5)	64
無	38 (95.0)	2 (5.0)	40
$\chi^2(1,0.05) = 13.87$			

## 3.5 観戦競技のプレー意向について

表 5-1 および表 5-2 はファン選手の有無による観戦競技プレー意向の比較 ( $\chi^2$  分析) の結果を示す. 男女ともファン選手の有無と観戦競技プレー意向との関連性は有意である. 男子では有群はプレー意向の有無は顕著であるものの, 無群でもプレー意向のある群の比率が高い. 一方女子ではファン選手の有無と観戦競技のプレー意向の有無は明確に連動している. 以上のことからファン選手の有無と観戦競技のプレー意向の有無との関連性には性差があることが示唆される.

表 5-1 観戦競技プレー意向 - 男子 -

	無	有	
有	5 (5.9)	80 (94.1)	85
無	36 (40.9)	52 (59.1)	88

$$\chi^2(1,0.05)=29.34$$

表 5-2 観戦競技プレー意向 - 女子 -

	無	有	
有	4 (6.2)	61 (93.8)	65
無	37 (92.5)	3 (7.5)	40

$$\chi^2(1,0.05)=77.57$$

#### 4. 考察

##### (1) スポーツ中継・報道への意識について

関心・好み・要望いずれの領域もファン選手がいる群では女子学生の意識が高いことが明らかとなった。見たい中継、容姿のいい選手の中継を優先し、一緒になって応援する熱いタイプの実況を好み、旬のタレントのゲスト出演、脇役選手やスーパープレー特集なども要望している。更に、女子学生はファン選手がいない群でも男子より有意に強く旬のタレントも望んでいる。スター選手以外の脇役選手（注目度の低い選手）の中から自分の好みの選手を見つけないとといった心理が働いているのではないと思われる。ただし、スーパープレーの特集を要求するなど女子学生が選手のビジュアルのみに執着しているのではない様子も窺える。観戦種目は尋ねていないため種目は不明であるが、いずれにしてもカーブ女子、セレ女といった熱心な女性ファンの存在が、本論における調査対象者である女子学生の中にも垣間見える。

一方、ファン選手がいない学生群では、男子の方が見たい中継を優先し、熱く応援する実況を好んでいるものの、性差が認められない項目が半数であり、ファン選手がいる群での性差が際立っていることが示唆された。

##### (2) 観戦の魅力領域について

ファン選手がいる群では5因子（応援・期待、ドラマ・覚醒、ストレス解消、共感、楽しみ）で女子の方がより強く魅力を感じて観戦していることが明らかとなった。ファンの選手を応援し、ともにプレーしているような一体感やドラマ性に魅力を感じながら観戦している様子が浮き彫りとなる。なお、学習・獲得因子では男子の方がより強く魅了を感じていることが示された。やはり、男子学生の方が高度な技術や素晴らしいプレーを少しでも理解し、できれば自分もできるようになりたいといった思いが強いと推測される。一方、ファン選手がいない群では全ての因子で男子の方が強く魅力を感じて観戦していることが示唆された。

##### (3) 観戦頻度について

ファン選手の有無と観戦頻度の関連性には性差が認められた。女子の関連性は明確でファン選手がいる群ほど観戦頻度が高い。これに比較して男子はファン選手がいない群の観戦頻度は低いものの、いる群の観戦頻度は一様であった。女子はファン選手がいれば高い確率で観戦するのに対し、男子はファン選手がいても必ずしも観戦するわけではないことが示唆された。女子学生のスポーツ番組視聴においてファン選手の有無は重要な要因であることが推測される。

#### (4) 勝利志向について

男子ではファン選手がいる群は勝利志向が強く、いない群は勝利志向が弱い。即ち、ファン選手の有無と勝利志向の強さが連動している。これに対して、女子ではファン選手がいる群でも勝利志向は弱く、いない群では更に弱かった。ファン選手がいる女子はその選手を応援することが最優先され、結果としての勝利に対する関心が男子ほど強くないことが推測される。

#### (5) 観戦競技のプレー意向

男子ではファン選手がいる群のプレー意向が非常に強いばかりでなく、いない群のプレー意向も過半数（59.1%）である。一方、女子はファン選手の有無とプレー意向の有無が明確に連動している。ファン選手がいる女子学生は、自分が観戦（応援）するばかりでなく、そのスポーツをしたいという意向があることが窺える。

## 5. 結語

本論は大学生のスポーツ番組視聴に関する意識についてファン選手の有無を分類要因としてその性差を分析検討することを目的とした。広島県内の大学生278名を対象として、配票調査（質問紙）を実施した。その結果は次のように整理される。

(1) スポーツ中継・報道への意識（6項目）には性差が認められる。特にファン選手がいる群では全ての項目において女子学生の意識が男子学生より有意に高い。一方、ファン選手のない群では2項目で男子の意識が有意に高い。

(2) 観戦の魅力領域（7因子）の評価には性差が認められる。ファン選手がいる群では5因子で女子の因子得点が有意に高い。一方、ファン選手のない群では全ての因子で男子の因子得点が有意に高い。

(3) 観戦頻度との関連性には性差が認められる。女子のファン選手の有無と観戦頻度は明確に連動しているのに対し、男子ではファン選手がいる群といない群との観戦頻度はほぼ同比率（36.5%、38.8%）であり、必ずしもファン選手がいるから高頻度で観戦するとは言えない。

(4) 勝利志向との関連性には性差が認められる。男子ではファン選手の有無と勝利志向の強弱が連動しているのに対して、女子ではファン選手がいても勝利志向の弱い学生が過半数（62.5%）にのぼり、ファン選手の有無に関わらず勝利志向は弱い。

(5) 観戦競技のプレー意向には性差が認められる。女子ではファン選手の有無とプレー意向の有無が明確に連動しているのに対し、男子ではファン選手がいない群の過半数（59.1%）にプレー意向があり、ファン選手の有無に関わらずプレー意向はある。以上のことから、本論の仮説（ファン選手の有無による番組視聴の意識には性差がある）は支持された。

本論の調査対象となった「ファン選手がいる女子学生」は、一緒に盛り上がるタイプの実況でゲストに旬のタレントなども交えたスポーツ番組・映像を高頻度で観戦し、ファン選手を応援し、彼らの喜びや楽しみを共感したいという意識が男子より高いことが示唆された。また、技術的・戦術的な関心や獲得意欲、さらには勝利に対する執着は男子より弱いことも同時に示唆された。いずれにしても近年のトレンドでもあるスポーツ女子の存在が垣間見える。

## 「謝辞」

本論は 29 年度近畿大学工学部情報学科卒業論文「スポーツ中継・報道に関する大学生の意識」および「観るスポーツの魅力領域に関する大学生の意識」の分析枠組みを修正し、新たなアプローチを試みたものです。小串君、渡部君、玉田君、前田君の取り組みがなければ本論は成し得ませんでした。末筆ではありますが、その努力に敬意を表するとともに深謝する次第です。

## 「注」

- 注 1) 学習因子, 選手応援因子, チーム応援因子, 試合結果因子, 鑑賞因子, ドラマ因子, カタルシス因子  
注 2) 素晴らしいプレー因子, 神話因子, 獲得因子, スリル因子, 期待因子, ストレス解消因子, 推理因子  
注 3) 審美性因子, フロー因子, サービスエクセレンス因子, 投資効果因子

## 「参考・引用文献」

- 1) 佐野昌行, スポーツイベントの観戦動機とその要因に関する研究, 日本体育大学紀要, 37, 2, 83-86, 2008
- 2) 松田, 女性のスポーツ観戦に関する意識・実態調査, womedia Labo\* (トレンダーズ株式会社) プレスリリース, 2015
- 3) 宮内, スポーツの観戦嗜好に関する調査, 産業能率大学スポーツマネジメント研究所, 4-7, 2009
- 4) 佐野, スポーツイベントの観戦動機とその要因に関する研究, 日本体育大学紀要, 37, 2, 83 - 86, 2008
- 5) 千駄, 観るスポーツの魅力とその要因, 実技研究, 5, 98 - 112, 1990
- 6) 斉藤, スポーツ観戦者における経験価値の比較に関する研究, スポーツ研究科学, 8, 35 - 47, 2011